

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2018年度 共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2019年 4月28日 提出

1. 研究課題名	
占領都市空間の写真アーカイブズ研究—米国国立公文書館所蔵写真を中心に— (英文標記: Study on Photograph during occupied of Japan : The U.S. National Archives and Records Administration)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
玉田 浩之 (たまだひろゆき)	大手前大学 メディア・芸術学部 准教授
3. 研究分担者 (合計:6名)	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
大場 修	京都府立大学・教授
砂本 文彦	神戸女子大学・教授
角 哲	名古屋市立大学・准教授
長田 城治	郡山女子大学・講師
村上 しほり	神戸大学・研究員
矢野 桂司	立命館大学・教授
佐藤洋一	早稲田大学・教授

4. 研究課題の概要(300字程度)
<p>本研究は、米国の国立公文書館が所蔵する占領期写真のデータベース化に取り組むものである。占領軍が撮影した日本の写真は、戦後の都市空間を明らかにする資料として貴重であるにもかかわらず、米国にあるため、アクセスしにくい資料のひとつといえる。また、日本に関する写真資料の量が膨大なだけでなく、インデックスカードによる検索が必要なため、目的の資料に辿り着くのも容易ではない。米国公文書館所蔵の写真資料を見やすく使いやすくするためには何が必要なのか、占領期の都市空間に有効なアーカイブの在り方について検証する必要がある。</p> <p>本研究は、これまで収集してきた占領期日本の写真資料を整理し、情報技術を駆使して蓄積・共有化を図ることを目的とする。本研究により、占領期日本の写真情報を蓄積していく場が構築され、占領期日本の都市空間研究を促すことが期待される。</p>

5. 研究成果の概要

本年度は写真アーカイブの構築にあたって、これまでに取得した写真データ(サムネイルおよびリスト)を整理し、情報の分類方法を検討した。

アーカイブを検索するためのキーワードについて検討した結果、写真データを「**accession, box number, classification, collection, copy right, note, owner, photographer**」に分類することとした。さらに、写真を収集した主体の情報も付記することとした。